

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年2月23日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格情報			2月の価格情報		3月		生育及び価格の3月上旬までの見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関 東・近畿ブロッ ク旬別平均販売 価格	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格				
		中旬	下旬						月上旬	
葉 茎 菜	キャベツ 	88.05	108	103	88.05	88	88.05	・入荷見込量: 13,840 (100) ・主産地: 愛知 (60)、千葉 (20)、神奈川 (14)	・愛知産は、2月の低温・干ばつの影響で生育に若干遅れがみられ、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は気温が上昇する時期でもあることから、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の降雨と低温などにより傷みが散見され、現在は平年より少なめの出荷となっているが、今後は主力産地の増量見込みなどもあり、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、2月の低温により小玉傾向で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		83.73	95	93	83.73	83	83.73	・入荷見込量: 3,700t (90) ・主産地: 愛知 (52)、大阪 (10)、兵庫 (8)、和歌山 (8)	・愛知産、千葉産及び神奈川産の出荷が、平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	229.99	196	206	229.99	222	229.99	・入荷見込数量: 4,440 (105) ・主産地: 千葉 (41)、埼玉 (25)、茨城 (13)、群馬 (9)、輸入 (3)	・千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の発生が見受けられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		450.51	428	397	450.51	410	450.51	・入荷見込数量: 200t (97) ・主産地: 徳島 (32)、高知 (18)、奈良 (14)、香川 (9)、三重 (6)	・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産及び茨城産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	はくさい 	61.12	34	39	61.12	48	61.12	・入荷見込量: 13,020t (100) ・主産地: 茨城 (51)、兵庫 (20)、群馬 (17)	・茨城産は、生育は順調で引き続き平年よりやや多めの出荷となる見込み。兵庫産は、定植後の天候に恵まれ、現在は前進出荷の傾向であり、一部のほ場で干ばつなどにより病害が開始しているが、全体的には生育は概ね順調であり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		68.70	49	57	68.70	62	68.70	・入荷見込量4,400t (87) ・主産地: 愛知 (31)、宮崎 (24)、兵庫 (13)、鹿児島 (10)、長崎 (8)	・茨城産及び兵庫産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	ほうれんそう 	307.66	541	519	307.66	463	307.66	・入荷見込量: 1,550t (105) ・主産地: 茨城 (26)、群馬 (23)、千葉 (22)、埼玉 (16)	・茨城産は、生育は順調で病害もないことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、病害虫の発生はないものの、最近の低温により生育が停滞気味となっていることから、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇に伴い、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、低温により生育の停滞が見られていたが、気温の上昇と日照時間の増加に伴い生育は回復傾向であり、平年並みの出荷の見込み。	
		341.25	539	532	341.25	493	341.25	・入荷見込量: 670t (104) ・主産地: 徳島 (51)、福岡 (34)	・茨城産、群馬産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	レタス (結球) 	233.85	243	237	233.85	232	199.64	・入荷見込量: 6,960t (98) ・主産地: 静岡 (32)、香川 (12)、兵庫 (8)、千葉 (8)、福岡 (6)、熊本 (5)	・静岡産は、昨年11月上旬頃の多雨により、定植が遅れたほ場からの出荷となっていることや一部のほ場で病害が発生していることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は回復して平年並みの出荷の見込み。香川産は、1月の低温と多雨の影響で一部のほ場で病害が発生しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。兵庫産は、2月からの低温・干ばつの影響で生育は停滞気味となっており、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇に伴い平年並みの出荷の見込み。	
		226.75	245	240	226.75	234	203.61	・入荷見込量: 1,000t (88) ・主産地: 兵庫 (42)、徳島 (23)、長崎 (13)、香川 (12)	・香川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、主力の静岡産や兵庫産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
たまねぎ 	76.15	85	90	76.15	94	76.15	・入荷見込量: 10,230t (102) ・主産地: 北海道 (74)、輸入 (5)	・北海道産は、選別・調製を終えて倉庫に保管されて、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。		
	76.15	89	94	76.15	95	76.15	・入荷見込量: 3,600t (88) ・主産地: 北海道 (63)、兵庫 (22)、静岡 (10)	・北海道産は、計画的な出荷が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
果 菜	きゅうり 	370.98	384	399	370.98	429	253.93	・入荷見込量: 4,410t (98) ・主産地: 宮崎 (31)、千葉 (21)、高知 (15)、群馬 (14)、茨城 (9)、埼玉 (4)	・宮崎産は、最近の低温と曇天に加え、作型の切替もあり現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は順調であることに加え、今後は気温の上昇とともに出荷の増加が見込まれることから平年並みの出荷の見込み。千葉産は、1月下旬の日照不足などにより、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は日照量の増加に伴い平年並みの出荷の見込み。高知産は、病害虫の発生もなく生育は順調で、今後は天候が安定して推移すれば引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		350.33	348	379	350.33	412	242.77	・入荷見込量: 1,000t (93) ・主産地: 宮崎 (42)、徳島 (19)、高知 (18)、愛媛 (8)、佐賀 (7)	・宮崎産、千葉産、高知産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	332.60	333	359	332.60	374	339.78	・入荷見込量: 4,980t (100) ・主産地: 熊本 (38)、栃木 (17)、愛知 (12)、宮崎 (5)、千葉 (4)、静岡 (4)、福岡 (3)、群馬 (3)	・熊本産は、低温と曇天の影響で平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は作付面積の増加に加え、気温の上昇で着色も進むため、平年よりやや多めの出荷の見込み。栃木産は、定植後の天候に恵まれ前進出荷の傾向となっており、生育も順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		311.06	326	348	311.06	360	321.78	・入荷見込量: 880t (88) ・主産地: 熊本 (67)、福岡 (11)、愛知 (7)	・熊本産及び栃木産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	なす 	389.03	404	419	389.03	467	347.77	・入荷見込量: 1,930t (98) ・主産地: 高知 (62)、福岡 (19)、佐賀 (5)	・高知産は、最低気温の上昇に伴い数量は回復傾向となっており、病害虫の発生もなく生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月の低温、曇天の影響で平年よりやや少なめの出荷であるが、生育は順調で花数も多いため、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		397.74	391	409	397.74	466	330.95	・入荷見込量: 360t (92) ・主産地: 高知 (41)、熊本 (27)、福岡 (20)、岡山 (8)	・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	ピーマン 	551.24	661	677	551.24	700	551.24	・入荷見込量: 1,290 (100) ・主産地: 宮崎 (46)、高知 (22)、茨城 (15)、鹿児島 (15)	・宮崎産は、作付面積の減少はあるものの、現在は概ね平年並みの出荷となっており、着果も良く特段の病害もないことから生育は順調で、今後は平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。高知産は、着果は多くあり生育も順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、花とびの影響により、現在は平年よりやや少なめの出荷で回復基調にはあるが、今後は平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
		513.91	602	632	513.91	654	513.91	・入荷見込量: 300t (80) ・主産地: 宮崎 (45)、高知 (29)、鹿児島 (9)	・茨城産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれるものの、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
	根 菜	だいこん 	79.03	68	82	79.03	88	79.03	・入荷見込量: 12,060t (100) ・主産地: 神奈川 (57)、千葉 (27)	・神奈川産は、低温の影響で小ぶり傾向で平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は最近の適度な降雨と気温の上昇に伴い平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温により生育が停滞気味ではあるが、生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。
			80.47	65	70	80.47	73	80.47	・入荷見込量: 3,600t (104) ・主産地: 鹿児島 (29)、長崎 (29)、徳島 (27)、和歌山 (7)	・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
にんじん 		101.05	70	71	101.05	79	101.05	・入荷見込量: 6,340t (105) ・主産地: 千葉 (69)、埼玉 (5)、茨城 (4)、輸入 (2)	・千葉産は、正品率が高く潤沢な出荷となっていることから平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。	
	104.73	76	70	104.73	71	104.73	・入荷見込量: 2,700t (109) ・主産地: 鹿児島 (71)、長崎 (16)、鳥取 (7)	・千葉産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、平年を下回っている価格は、徐々に平年並みに近づき見込み。		

種類	1月の価格情報				2月の価格情報		3月		生育及び価格の3月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		
		中旬	下旬		上旬				
いも	217.95	247	222	217.95	229	217.95	・入荷見込量：570t (101) ・主産地：千葉 (39)、埼玉 (32)、輸入 (5)	・干菜産は、前進出荷の傾向であったことや出荷の終盤期に伴い減少することが見込まれるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、12月に収穫は終了し、現在は貯蔵品の計画的な出荷が行われており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・埼玉産及び干菜産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
	219.65	214	214	219.65	251	219.65	・入荷見込量：94t (-) ・主産地：愛媛 (51)、輸入 (17)、宮崎 (14)、熊本 (9)、鹿児島 (5)		
ばれいしょ	88.17	91	91	88.17	93	88.17	・入荷見込量：9,070 (102) ・主産地：北海道 (64)、鹿児島 (20)、長崎 (16)	・北海道産は、現在は貯蔵品の出荷で平年並みの出荷であるが、今後は徐々に数量は減少し平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、現在主力産地の出荷は終盤であるが、後続の産地の生育は順調であり、鹿児島の産地も干ばつ気味で小玉傾向であるが収穫は順調であることから、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・鹿児島産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。	
	88.17	85	84	88.17	86	88.17	・入荷見込量：3,400t (83) ・主産地：北海道 (53)、鹿児島 (34)、長崎 (13)		

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもの大阪は前年実績。
 5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
 6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
 7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについてはねぎ(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、12月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5.233gで前年比102%、購入金額は、1,977円で同94%となった。
 また、小売物価統計によると、1月のキャベツの小売価格は、230円で過去5か年平均比109%、レタスは、826円で同121%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額 (1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年		前年比	前年比
	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)		
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,775	103	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	1,742	102	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	1,878	100	106
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	1,887	97	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	1,993	98	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	1,976	95	104
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	1,770	102	99
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	1,846	97	106
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	1,935	104	109
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	5,455	1,973	104	102
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	5,291	1,704	109	94
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	5,233	1,977	102	94

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
 注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	(単位：円/kg)					
	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成27年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成27年	5か年比 (%)
1月	212	230	109	684	826	121
2月	222			631		
3月	205			500		
4月	243			453		
5月	163			365		
6月	137			317		
7月	160			332		
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
 注：1 過去5か年平均は、平成22～26年の平均。
 2 平成27年1月の値は、1月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

1月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比66% (中国は同72%)の2万4千トン、にんじんは、同58% (中国は同63%、米国は同82%)の3千7百トン、ねぎは、同108% (中国は同109%)の4千8百トンとなった。たまねぎ、にんじんは前年を大幅に下回ったものの、ねぎは前年をかなりの程度上回った。

野菜の輸入数量

区分	(単位：トン、%)							
	平成24年		平成25年		平成26年1～12月		平成26年12月	
	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比			
生鮮野菜	946,920	103	854,042	90	884,752	104	70,528	74
加工野菜	1,909,670	106	1,854,162	97	1,784,905	96	145,658	88
野菜合計	2,856,590	105	2,708,205	95	2,669,658	99	216,186	83
うち中国産野菜合計	1,458,402	103	1,415,762	97	1,409,102	100	125,918	85
中国産シェア	51		52		53		58	

資料：ベジ探(原資料) 財務省「貿易統計」

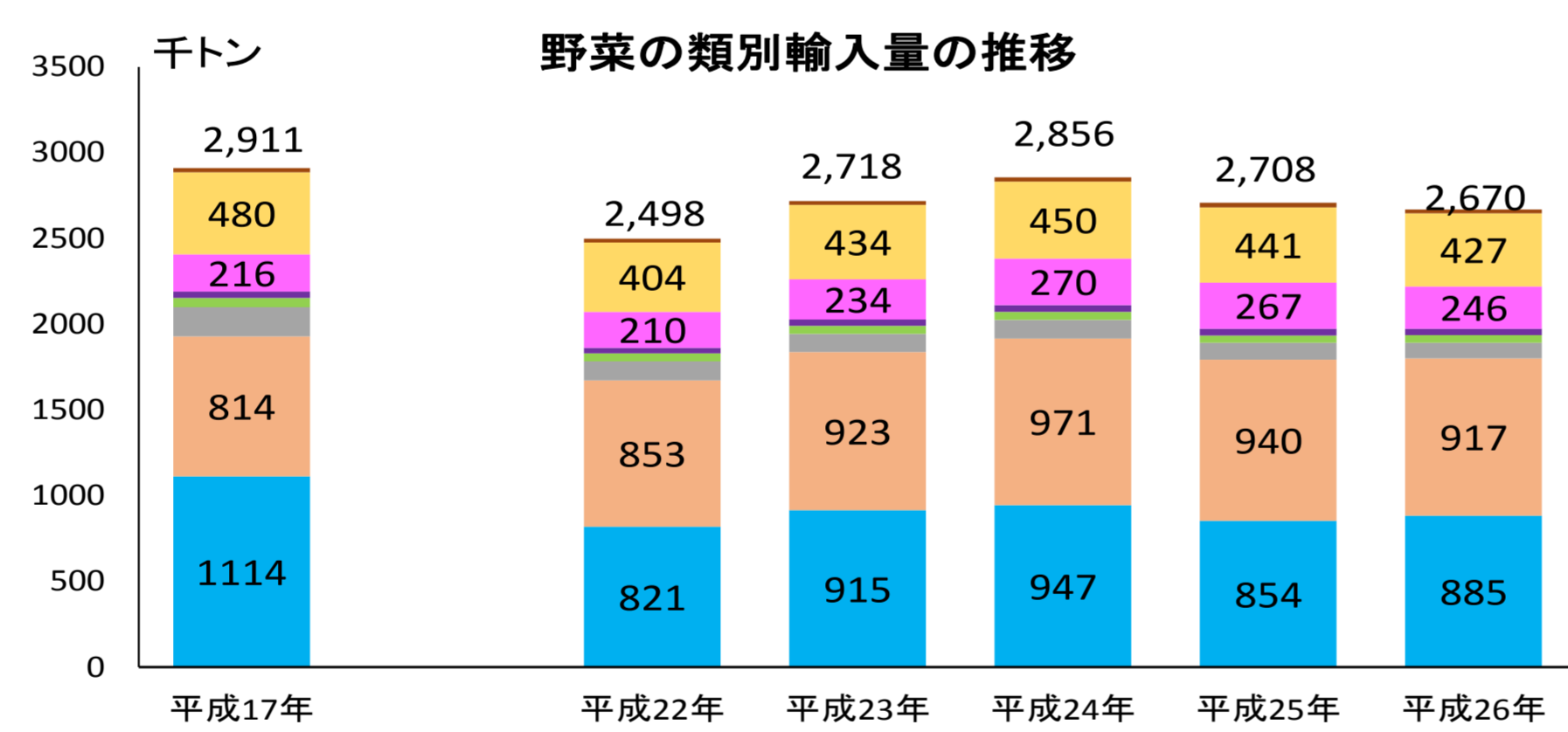
主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	(単位：トン、%)		
		平成26年1月(A)	平成27年1月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	35,836	23,755	66
	中国	28,327	20,276	72
	米国	7,127	3,312	46
にんじん	合計	6,340	3,708	58
	中国	5,769	3,634	63
	米国	34	28	82
ねぎ	合計	4,486	4,849	108
	中国	4,454	4,841	109

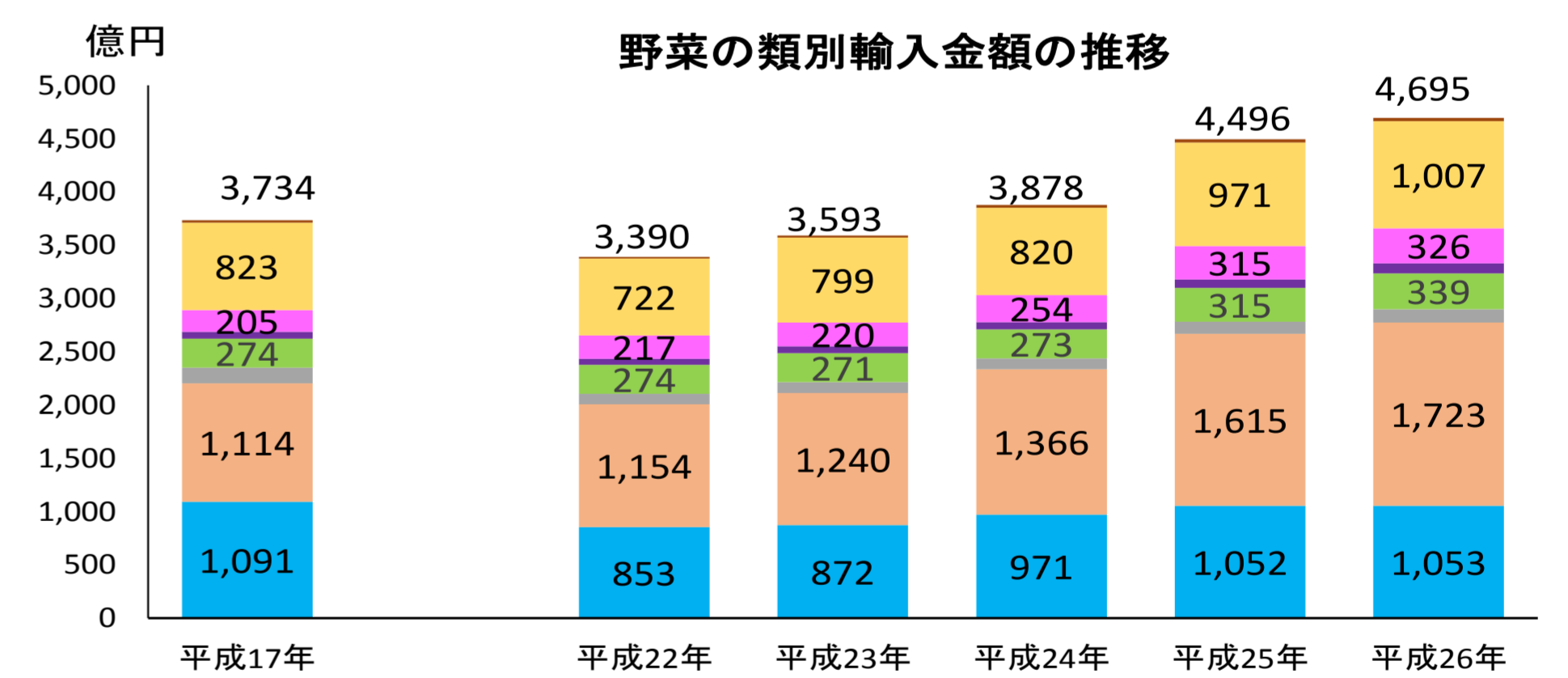
資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成27年1月は速報値。

4 トピック — 平成26年の野菜輸入動向について —

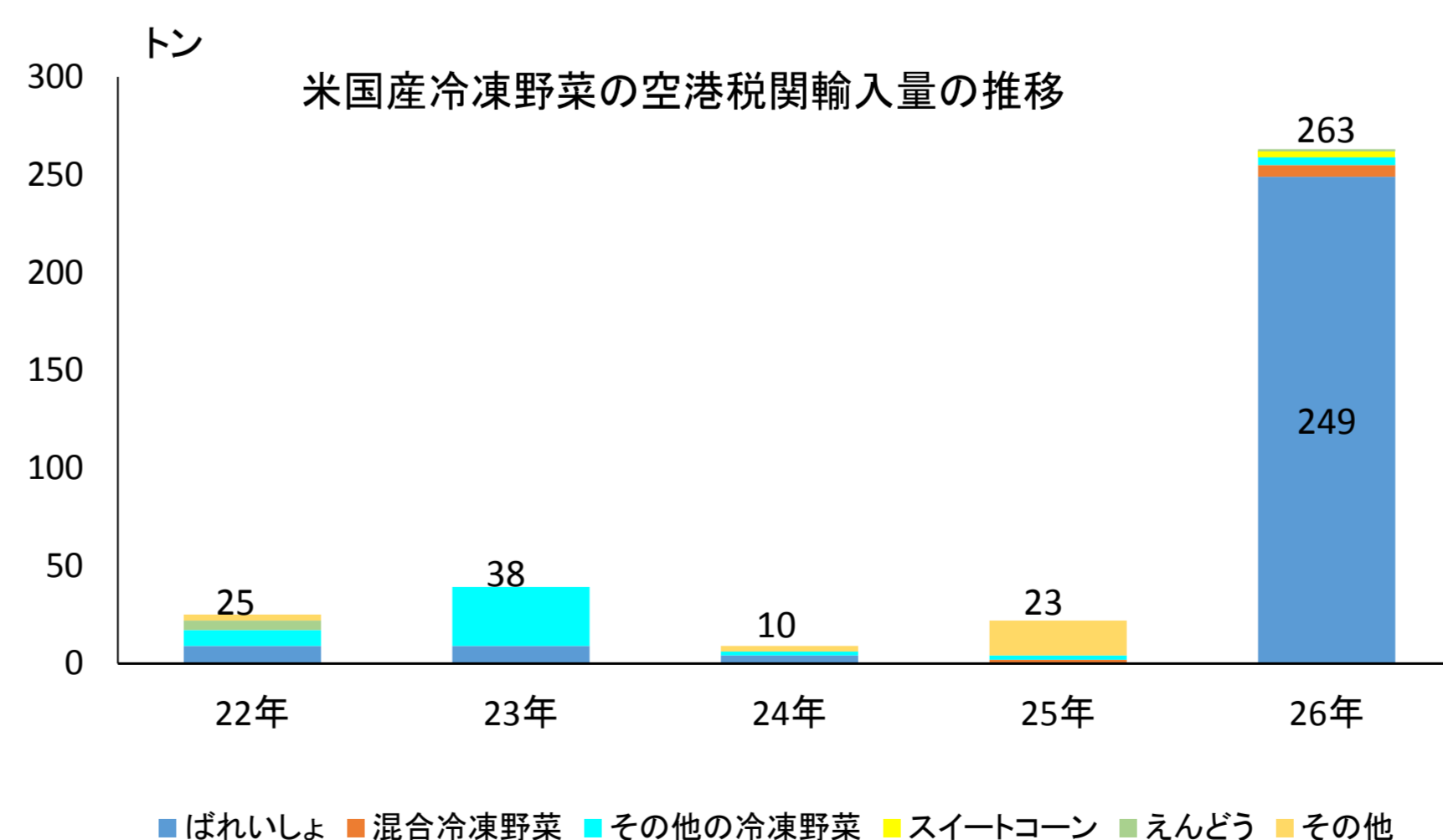
平成26年の野菜の類別輸入数量は、生鮮および乾燥野菜が増加したものの、それ以外では減少したことから、全体では前年比1.4%減の267万トンとなり、2年連続の減少となった。
 一方、輸入金額は、輸入数量の過半を占める中国の生産・加工コストの上昇や最近の円安による輸入単価の上昇等から、前年比4.4%増の4,695億円となり、過去最高を記録した。
 特に、平成25年～27年の為替レート(TTS、円/ドル)は、80.8円から106.8円へと32%の大幅な円安となり、輸入単価(円/kg)も同期間に136円から176円へと33%の大幅な上昇となった。
 平成26年の輸入数量を、過去最高であった平成17年と比較すると、全体では8.3%減、生鮮野菜は21%減となった一方、加工度が高い冷凍野菜、トマト加工品は各々13%増、14%増となった。輸入額は、輸入単価の上昇も相まって26%の大幅な増加となり、特に冷凍野菜、トマト加工品が各々55%、59%増加した。このように最近の輸入動向は、単価や加工度が高い冷凍・加工品や調製品の金額ウエートが高まる傾向がみられる。
 また、昨年の後半以降の米国西海岸の港湾ストの影響から、輸入ウエートは小さいものの、フライドポテト仕向けが多い冷凍ばれいしょの輸入が滞り、昨年8月～12月の輸入量は23%減少した。このため、米国からの航空貨物による輸入量が、一部の外食企業の代替輸送もあって急増した。(参考：航空貨物便の運賃は船便の約4倍強)
 平成26年の野菜輸入量は、国内産や海外産地の作柄、市況変動と円安の影響を受ける中で、年の前半は増加傾向、後半には減少傾向となり、さらに米国の港湾ストの影響も一部みられた。
 最近では、輸入構造の変化もみられており、国産野菜も単価や加工度が高い製品の競争力を強化していくことが重要となっている。



区分	合計	その他	その他調製野菜	トマト加工品	許調製野菜	乾燥野菜	塩蔵等野菜	冷凍野菜	生鮮野菜
増減率	△8.3	△12.7	△10.9	13.7	5.8	△21.5	△46.1	12.6	△20.6



区分	合計	その他	その他調製野菜	トマト加工品	許調製野菜	乾燥野菜	塩蔵等野菜	冷凍野菜	生鮮野菜
増減率	25.8	53.0	22.3	59.3	52.5	23.7	△15.5	54.6	△3.5



資料：財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.ai.co.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。